

- ・ 東京都立教育研究所教育相談部長 緑川尚夫
- ・ 千葉県教育センター教育相談部長 相本恒郎
- ・ 教育センター担当所員

③ 中学校・高等学校教育相談講座

① 期日・人員等

- ア 第2次 前期 9月6日～9月9日
後期 12月7日～12月10日

- イ 中学校教員 18名
高等学校教員 12名

② 主な内容

- ・ エゴグラム
- ・ バウム（樹木画）テスト
- ・ カウンセリングテープ分析
- ・ ロール・プレイング
- ・ カウンセリング実習
- ・ Y—G性格検査の分析
- ・マイクロ・ラボラトリー・トレーニング
- ・個人理解の方法（事例研究）
- ・行動カウンセリング
- ・教育催眠

③ 講 師

- ・ 山形大学教育学部助教授 高橋良幸
・ 教育センター担当所員

第3節 教育研究

1 教育課程の経営に関する研究

(1) 研究の視点

教育課程経営における教育現場の問題は、編成・実施・評価の各過程が連動せず、各過程間に断絶がみられることである。特に、教育課程評価の実質的な活動にやや問題があり、これが次年度の計画改善にも影響を与え、教育課程経営全体の実効性を少なくする原因となっている。したがって、本研究第2年次の研究の方向を「教育課程経営における評価過程のあり方」に求め、教育現場より要請される「教育課程評価票（試案）の開発」を目指して研究を進めるものである。

(2) 研究の内容

教育課程の経営に関する研究（3年研究）

(3) 研究の概要（第2年次）

① 教育課程評価に関する理論研究

- ・ 教育課程評価の意義
- ・ 教育課程評価の周辺—教育評価と教育課程評価
- ・ 経営的発想に基づく評価
- ・ 教育課程評価票（試案）の構想

② 研究協力校による教育課程経営に関する調査

- ・ 調査結果の処理と考察

③ 資料編「新教育課程の実施に関する調査」(中学校)

- ・ 調査結果・実践資料の整理

④ 紀要「教育課程の経営に関する研究—第2年次」刊行

2 学習指導の個別化に関する研究

(1) 研究の視点

学習指導に関する今日的な課題の一つに、学習者中心の授業の創造がある。それは、対象とするすべての児童生徒一人一人に目を向けて、個を理解し、個に即した働きかけを行い、一人一人の児童生徒に確かな学習を成立させる、学習指導法開発への要請でもある。このような要請に応じて、昭和55年度から3年計画で研究協力校のもとに、「学習指導の個別化」に関する研究を取り組んできている。

第3年次の本年度は、中学校の数学科と英語科の授業を通して、前年度までの「個を認める」働きかけや「個を生かす」働きかけを更に一步深めて追究し、生徒一人一人により確かな学習の成立を目指す方策について研究した。

(2) 研究の内容

「個に応ずる研究」(3年研究の第3年次)

(3) 研究の概要

本研究は、個のつまずきや到達の度合いに応じた学習課題を設定し、分枝型学習によって「個に応ずる」働きかけを行い、個の確かな学習の成立を目指した。検証授業は、「2—1—2方式」の授業研究によって行い、研究主題の解決策の効果は、研究前と研究後に実施したアンケート・作文・諸テスト等の結果の比較で判定し、その効果を認めることができた。

紀要「個に応ずる研究」を刊行した。

3 福島県標準学力診断検査問題の研究

(1) 研究の視点

この研究は、新教育課程の実施に伴い、当教育センターの標準学力診断検査問題を、全面的に改訂・作成するための研究で、継続研究事業である。

そのため、新学習指導要領に沿った検査問題とすること及び県内各校で、自校の児童の学力の実態を分析・把握し教育課程や学習指導の改善に役立て得る検査問題とすることを視点として研究を進めた。

(2) 研究内容と方法

① 福島県標準学力診断検査問題の研究

所員と小学校教員からなる研究委員会を構成し、国語科・算数科については、1・2・3学年の学力の実態を分析し、社会科・理科については、1・2・3学年用の問題の作成を行った。

② 福島県標準学力診断検査の実施

社会科・理科について、層化無作為2段抽出法により小学校17校を抽出し、1・2・3学年の学力診断検査問題による本テストを実施した。

4 小学校低学年理科指導に関する研究

(1) 研究の視点

活動を重視する小学校低学年理科指導はいかにあるべきか。本県における理科指導上の問題点、身につけさせるべき学力、そしてそのとらえ方などに視点を置き、授業実践により、その方向性を探る。